

幼児における絵本の表紙選択の発達の検討 ：幼児の好む表紙と大人が読んであげたい表紙は一致するか？

村上 太郎^{*1}・小路 由紀乃^{*2}

^{*1}九州女子大学人間科学部人間発達学科人間発達学専攻 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

^{*2}山内幼稚園 飯塚市柏の森626-1 (〒820-0011)

(2019年5月28日受付、2019年5月28日受理)

要 旨

本研究の目的は、幼児が読みたい絵本と大人が読んであげたい絵本とが一致するかどうかを実験的に検討することであった。第1実験では合計38名の幼児（4歳児、5歳児）を対象に、表紙の絵が異なる同一の話の絵本の表紙を6つ呈示し、読みたいと思う絵を選択してもらう課題を実施した。第2実験では、大学生20名に子どもに読み聞かせをするならどの絵本を選ぶかと訊ねた。その結果、年長児において絵本の表紙の選好に性差がみられた。また、幼児が選んだ表紙と大学生が選んだ表紙との間にはギャップがみられることが示された。本研究の結果は、絵本選好における視覚的な要素も絵本選びを行う際にポイントとなることを示唆している。

キーワード：絵本、表紙、幼児、選好、子どもと大人のズレ

1 問題と目的

絵本研究と発達研究

発達心理学における絵本研究は、親子の絵本場面における関わりや質や量に着目したものが多い。おもちゃなどの絵本ではない対象を使って遊ぶ場面と比べ、絵本共有場面では賞賛やほほえみといった母親の応答的な働きかけが多くみられる（佐藤・内山, 2012; 佐藤, 2016）ことや、母子の指さし生起頻度が高い（菅井・秋田・横山・野澤, 2010）ことが示されており、絵本を共有する場面において、共同注意的な三項関係が成立しやすく、相互作用を促す場としての重要性が示唆されている。また、幼児期においても、共有型／強制型といった母親の養育態度は読み聞かせの際の子どもへの関わり方に影響を及ぼしていること、そして5、6歳になると子どもの主体的な発話は共有型において多くみられることが示されており、親の養育態度と子どもの語彙力の伸びとの関連性についても興味深い示唆がなされている（斎藤・内田, 2013）。このような、絵本場面において生じる親子の相互作用に関する知見は実践への示唆という点で重要な研究であると思われる。

また、発達研究においては、親子の相互作用に着目するだけでなく、子どもの物語理解や想像力に着目した研究も散見される。中澤・中道・大澤・針谷（2005）は、絵本の絵に注目し、それが幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響を検討している。5歳児は“かわいい”イメージを好むことが示された一方で、絵の表現形式（かわいい絵とそうでない絵）が5歳児の物語理解や想像力（イメージ形成）に及ぼす影響を検討した結果、かわいいイメージの絵は幼児の想像力を抑制することが示された。また、絵の表現形式と幼児の好みとが5歳児の物語理解や想像力に及ぼす影響を検討した結果、絵の表現形式と幼児の好みはいずれも物語理解に影響しないことや、幼児の想像力が幼児の好みに関係なくかわいいイメージの絵によって抑制されることが示された。絵本の絵は幼児の物語理解というより想像力への影響を示唆するという中澤ら（2005）の知見は、幼児期の認知発達についても興味深い視点を与えるものと言える。

これらの先行研究から、親子のコミュニケーションや関わり方、そして物語理解や想像力の発達といった認知発達の視点においても絵本は重要なツールであることがうかがえる。

絵本はどのように選ばれているか

それでは、絵本はどのように選択されているのだろうか。保育者が絵本を選択するプロセスに着目した研

究はまだ豊かな研究の蓄積があるとは言えないが、片山・野口・佐藤（2017）は、ベテラン保育士の絵本選定に着目し、絵本選択がどのような価値観のもとで行われているのかについて調査を行っている。その結果、出版社へのイメージの良さ、そして人的な信頼感が背景にある可能性を示唆している。調査対象が6園ということもあり、この知見の一般可能性について今後の検討の余地はあるものの、出版社の営業戦略も絵本選定に寄与する要因の一つとして考えられるであろう。

松村・岡本・宇陀（2010）は、子どもが選んだ好きな絵本を読み聞かせし、見開きのページ毎に子どもの反応を分析し、ページ毎の主題との関係性を検討している。その結果、子どもの反応が多い、すなわち子どもが積極的に興味を持ったページには、「楽しむ」「陽気な」主題が含まれていることが示された。この知見は、子どもの絵本選びの傾向を探るものとして興味深いものであると言える。

このように、絵本の選択には、大人や保育者側の価値観に基づくものと子どもの選好によるものがあると考えられる。しかしながら、大人が「良い絵本」すなわち読ませたい絵本として選択するものと、子どもが選ぶ絵本との間にはズレがみられることも指摘されており（中西・覚道, 1992）、子どもにも合わせた絵本探しスムーズに行えるような方略を構築していくことは実践的に意義のあることだと言える。

そのような中で近年、絵本探しのサポートとして絵本検索システム「ぴたりえ」が注目を浴びている。ぴたりえはNTTが開発しており、1)「子どもの興味や月齢にあった」絵本を推薦すること、2)「効率よく正確に」絵本を推薦できること、3)「手軽に」使えること、といった点を備えている（大竹ら, 2017）。ぴたりえの特色は、絵本に関する複数の特徴量（単語頻度情報、書誌情報、画像特徴量など）を用いて、情報工学の最新技術と発達心理の知見を組み合わせている点であり、子どもの年齢と興味に合わせた絵本を、タイトルのみからではなく、絵本の単語頻度情報に基づいて探索することに加えて、気に入った絵本があればそこからさらに内容や絵が類似した絵本を探索することができる（大竹ら, 2017）、という点で絵本選択における便利なツールであると言える。

絵本選びにおいて内容はもちろん重要ではあるが、子どもが最初に判断する材料、言い換えると「読んでみたい」と思った時に最初に目にしているものは表紙の絵であることは間違いなさだろう。子どもが絵本を選んでいるとき、本を開いて内容を吟味して選ぶという行動はほとんどみられない。子どもはどのような表紙を好むのだろうか。これまでの先行研究が内容理解について絵本の情報と理解のプロセスに関していくらか明らかにしてきた一方で、絵本の表紙に着目した子どもの視覚的選好について検討した研究はまだない。このような観点から、本研究では子どもの絵の好みに関する検討を先駆的に行い、その試験的な知見を提供することとする。

絵本を購入する、もしくは読みきかせのために選ぶなど、絵本を選ぶのは大人である場合が多いと考えられるが、その際の絵本選択は大人の好みや思いが反映されている可能性が強く考えられる。大人は子どもが喜ぶような絵本を選びたいという思いは強いだろうが、果たして大人が選択する絵と子どもが好む絵は一致するのだろうか。

本研究では、第1実験として、幼児を対象とした絵本の絵の選好調査を行い、幼児の絵の表現の好みを明らかにする。続いて第2実験として同じ実験状況で大人が選択する絵の表現を明らかにし、子どもが好む絵の表現と大人が選択する絵の表現が一致するのかを検討する。

II 第1実験（幼児調査）

同一の物語を表現した絵の表紙の中で、どのような表現の絵が幼児に好まれるのかを検討した。また、その選好が年齢や性別によって異なるのかを検討した。

1. 方法

調査協力者：K県のこども園に通う年中児15名（男児8名、女児7名；平均月齢58.6ヶ月、標準偏差3.8、範囲48～63ヶ月）、年長児23名（男児14名、女児9名；平均月齢70.3ヶ月、標準偏差3.3、範囲65～76ヶ月）の合計38名。

刺激：同一の話について複数の絵本の表紙を用いるため、多くの出版社から出版されていること、また、

それぞれ特徴があり好みが分かれそうだという基準から、著者らを含む数名で検討を行い、絵本『3びきのこぶた』、『おおきなかぶ』、『おおかみと7ひきのこやぎ』を刺激絵本として選定した。なお、子どもの絵本に関する既知／未知の情報に関しては統制することが困難であると考えたこと、そして子どもにとって未知の絵本、かつ異なる出版社（絵柄）から複数出版されている絵本を選定することは困難であったことから、多くの子どもがストーリーを知っているにもかかわらずどのような絵を選好するのかについて検討を行った。用いた絵本の出版社は以下『3びきのこぶた』①フレーベル館、②ポプラ社、③河出書房新社④岩崎書店、⑤永岡書店、⑥ひさかたチャイルド（図1）、『おおきなかぶ』①世界文化社、②福音館書店、③メイト、④ポプラ社、⑤教育画劇、⑥学研教育出版（図2）、『おおかみと7ひきのこやぎ』①世界文化社、②登龍館、③講談社、④河出書房新社、⑤永岡書店、⑥メイト（図3）である。



図1. 3びきのこぶた 表紙



図3. おおかみと7匹のこやぎ 表紙

手続き：個別面接法で行った。園の空いている一室にて調査を行った。課題に先立って調査者は調査協力者と名前や年齢を尋ねるなどをしてラポールを形成した後、絵の選好課題を行った。絵の選好課題でははじめに1つの話について出版社の違う表紙の絵を6枚提示し、「どれも同じお話だけど、全部絵が違うよね。この中で〇〇（被験児の名前）くん／ちゃんの好きな絵を3つ選んでください。」と教示した。子どもが3つ選択した後、「その中で一番好きなのはどれですか？」「次に好きなのはどれですか？」と質問し、6つの表紙から上位3つの順位付けをさせた。上記の流れを3つの話について行い、提示する話の順番や提示する表紙の配置は被験者間でカウンターバランスをとった。

分析に際しては、子どもの反応に基づいて、最も好きな絵に3点、以下順位に従って2点と1点を与えた。その他の絵は全て0点とした。また、その本を選んだ理由についても子どもに訊ね、回答がみられた場合記録した。

2. 結果

絵本の表紙の種類において選ばれた得点に差があるかどうかを調べるために、年齢(年中／年長)×性別(男／女)×絵本の表紙(6種類)の3要因分散分析を3つの絵本それぞれにおいて行った。各本の平均得点と標準偏差を表1に示す。

表1. 幼児における絵本選好課題の本ごとの平均得点(下段括弧は標準偏差)

		3びきのこぶた					
		①	②	③	④	⑤	⑥
年中	男児	0.50 (0.85)	2.50 (1.08)	0.80 (0.92)	0.70 (0.82)	0.80 (1.13)	0.70 (1.06)
	女児	0.00 (0.00)	1.71 (1.11)	1.57 (1.27)	1.00 (1.41)	1.14 (1.21)	0.57 (0.77)
年長	男児	0.67 (1.07)	2.00 (1.21)	0.92 (1.16)	0.75 (0.97)	1.08 (1.08)	0.58 (1.08)
	女児	0.11 (0.33)	1.89 (0.60)	2.00 (1.32)	0.56 (1.01)	0.67 (1.12)	0.78 (1.09)
		おおきなかぶ					
		①	②	③	④	⑤	⑥
年中	男児	0.30 (0.67)	2.30 (0.95)	0.50 (0.53)	1.30 (1.25)	0.50 (1.08)	1.10 (1.20)
	女児	0.57 (1.13)	0.86 (1.21)	1.14 (1.21)	1.71 (1.11)	0.57 (0.98)	1.14 (1.35)
年長	男児	0.33 (0.78)	1.33 (1.15)	1.00 (1.35)	2.00 (1.21)	1.08 (0.90)	0.25 (0.62)
	女児	1.00 (1.00)	1.67 (1.41)	0.33 (0.50)	1.78 (1.20)	0.56 (1.13)	0.67 (1.00)
		おおかみと7ひきのこやぎ					
		①	②	③	④	⑤	⑥
年中	男児	0.80 (1.32)	1.50 (1.18)	1.70 (1.25)	0.20 (0.42)	1.40 (1.17)	0.40 (0.70)
	女児	0.71 (1.25)	0.57 (0.77)	2.14 (1.21)	1.00 (1.15)	1.14 (1.21)	0.43 (0.77)
年長	男児	0.75 (1.22)	1.17 (1.34)	1.92 (1.00)	0.33 (0.89)	1.33 (0.89)	0.50 (1.00)
	女児	1.11 (0.93)	0.78 (1.09)	0.33 (0.50)	1.44 (1.51)	1.11 (1.17)	1.22 (1.48)

3びきのこぶた 分散分析の結果、年齢や性別の主効果はみられなかったが、表紙の主効果がみられ ($F(5, 170) = 10.41, p < .001$)、性別×表紙に交互作用が有意傾向としてみられた ($F(5, 170) = 2.05, p = .07$)。表紙の主効果における多重比較(以下、Ryan法)を行ったところ、②の絵はその他の絵より得点が有意に高く ($ps < .01$)、③の絵は①の絵より有意に得点が高いことが示された ($p < .01$)。②の絵は他の絵本より色合いがはっきりしており、かつ3匹のキャラクターの特徴が一見して異なっている印象を与えるものであった。③の絵は、色合いとしては赤やピンクを主体としており、キャラクターの目が大きめでキラキラしているものであった。選択の理由としては「もっている」「家にある」「読んだことがある」「見たことがある」という意見が多かった。

性別×表紙の交互作用における単純主効果について検討を行った結果、③の絵において性別の単純主効果が見られ、男児 ($M = 0.84$) より女児 ($M = 1.79$) の方が有意に得点が高いことが示された。

また、男児における表紙の選好については、②の絵がその他の絵より得点が有意に高いことが示された ($ps < .01$)。女児における表紙の選好については、②の絵は①、⑥の絵より有意に得点が高く ($ps < .01$)、③の絵は①、④、⑥より有意に得点が高いことが示された ($ps < .01$)。

おおきなかぶ 分散分析の結果、年齢や性別の主効果はみられなかったが、表紙の主効果がみられた ($F(5, 170) = 6.06, p < .001$) が、有意な交互作用はみられなかった。表紙の主効果における多重比較を行ったところ、②の絵は①、③、⑤、⑥の絵より有意に得点が高く ($ps < .01$)、④の絵は①、③、⑤、⑥の絵より有意に得点が高いことが示された ($ps < .01$)。②の絵はこの話において特に有名なものの一冊に挙げられるものであった。④の絵は登場人物が大勢で絵の中央にある大きなかぶを囲んでいるという絵であった。なお、選択の理由としては「動物がいっぱいいる」「楽しそう」など登場人物がたくさん描かれにぎやかな絵本を選んでいる意見が多かった。

おおかみと7ひきのこやぎ 分散分析の結果、年齢や性別の主効果はみられなかったが、表紙の主効果がみられた ($F(5, 170) = 2.60, p = .03$)。また、性別×表紙の交互作用に有意傾向がみられ ($F(5, 170) = 2.05, p = .07$)、年齢×性別×表紙の交互作用がみられた ($F(5, 170) = 2.43, p = .04$)。表紙の主効果における多重比較を行ったところ、③の絵は⑥より有意に得点が高いことが示された ($p < .01$)。③の絵は、ドアを挟んで半分が子やぎ、半分がオオカミといった印象的な絵で子やぎたちの敵であるオオカミが表紙の半分を占めている。色合いもほかの絵に比べてはっきりしていないが、理由として「おもしろそう」「オオカミがいるから」とあえてオオカミがいるものに興味を示し、選択していた。

年齢×性別×表紙の交互作用における単純・単純主効果を検定したところ、③の選好において年中女児 ($M = 2.14$) と年長女児 ($M = 0.33$) との間に有意な差がみられた ($p < .001$)。また、③の選好において年長男児 ($M = 2.07$) と年長女児との間に有意な差がみられ ($p < .001$)、④の選好において年長男児 ($M = 0.29$) と年長女児 ($M = 1.44$) との間に有意な差がみられた ($p = .03$)。年長男児における表紙の選好については、③の絵は①、④、⑥の絵より得点が有意に高いことが示された ($ps < .01$)。

これらの結果をまとめると、③の選好に関しては、年中児群では選好に性差がみられなかったものの、年長児群では顕著な性差がみられ、③の絵を年長女児は選ばず年長男児は選ぶことが示唆された。次に、④の選好に関しては、年長女児は④を選好する一方で、年長男児は④の絵を選ばなくなることが示唆された。

3. 考察

第1実験では、子どもたちは絵本の表紙のどのような絵のものを好むのか、また年齢や性によつての好みの違いはあるのかを検討した。絵本の表紙への選好について、結果から得られた傾向としては以下の通りである。『3びきのこぶた』においては、年中も年長もともに②の絵の得点が高いことが示された。『おおきなかぶ』においては、②と④の絵の得点が高いことが示された。『おおかみと7ひきのこやぎ』においては、③の絵の得点が⑥の絵より高いことが示されたものの、その他の表紙より得点が高いという結果は得られなかった。

次に、性別と表紙の絵との交互作用を検討した結果、興味深い結果がいくつか得られた。『3びきのこぶた』においては、②の絵については性差がみられない一方で、③の絵については女兒の方が選好することが示された。『おおかみと7ひきのこやぎ』においては、③の絵については年中児群では性差がみられないものの年長児群では男児がよく選び女兒が選ばなくなること、④の絵については逆に女兒がよく選び男児が選ばなくなることを示された。男児はオオカミが大きく描かれているものを好み、女兒は登場人物がかわいらしく楽しそうなものを好むという傾向が示唆されることから、年長男児は、絵本に対してハラハラやドキドキを求めるような性格が強くなっていくことが考えられ、さらには女兒が好むような絵本を「女の子らしい」として敢えて回避している可能性が考えられる。本研究において刺激として用いたものは表紙の絵のみであったが、絵を提示する程度でも選好に性差がみられたことは興味深い。子どもの絵本選択には、絵の情報を要因として考慮することも重要である可能性を本研究は示唆していると言える。

III 第2実験（成人調査）

第1実験の結果、子どもたちの表紙の絵の好みは年齢や性によって異なることが明らかとなった。第2実験では、同一の物語の表紙を用いて、大人が子どもたちに読み聞かせをしたらどれを選ぶか、またどのような点を重視して表紙の絵を選んでいるのかについて検討した。

1. 方法

調査協力者：女子大学の保育士・教員養成系の課程に在籍している大学4年生20名。学生のほぼ全員が、保育所実習及び幼稚園実習の必要な課程を終えており、現場での子どもに向けた絵本読みの経験を有している。

刺激：第1実験と同一の課題刺激を使用した。

手続き：個別面接法で行った。実験内容は第1実験に準じた絵の選好課題を行った。被験者に出版社の違う1つの絵本の表紙の絵を6枚提示し、「どれも同じ内容ですが、表紙の絵が違います。この中であなたが子どもに読み聞かせをしたらどれを選びますか。上位3つを順位付けし、理由も教えてください。」と教示を行った。

分析に際しては、第1実験と同様、最も読み聞かせをしたい絵に3点、以下順位に従って2点と1点を与えた。また、被験者が絵を選択した後、その絵を選んだ理由について尋ね、可能な限り言語化を求めた。

2. 結果

読み聞かせの際の絵本選択において、表紙の絵によって大学生の判断は影響をうけるのかを検討するため、3つの絵本それぞれについて絵本の種類（6種類）を被験者内要因とした1要因分散分析を行った。各絵本の平均得点と標準偏差を表2に示す。

3びきのこぶた 分散分析の結果、絵本の主効果が有意であった ($F(5, 95) = 8.43, p < .001$)。多重比較(以下、Ryan法)の結果、④の絵本は②、③、⑤、⑥より得点が有意に高く ($ps < .001$)、①は③より有意に得点が高かった ($p < .001$)。選択の理由として、「親しみがある」「よく見かける」「持っている」というような大学生自身が子どもの頃に読み聞かせをしてもらった思い出の絵本として選択している意見のほか、「絵がかわいい」「色合いがはっきりしていて見やすい」など色合いや見やすさを重視して絵本を選んでいることがうかがえた。

おおきなかぶ 分散分析の結果、絵本の主効果が有意であった ($F(5, 95) = 4.35, p = .001$)。多重比較の結果、②の絵本は③、⑥より得点が有意に高いことが示された ($ps < .001$)。選択の理由として、「人気がある」「定番である」といった世間の評価を取り入れ選択している意見のほか、「カブを抜くシーンが伝わりやすい」「物語がイメージしやすい」など物語の内容と関連付けて選んでいることがうかがえた。

おおかみと7ひきのこやぎ 分散分析の結果、絵本の主効果が有意であった ($F(5, 95) = 6.21, p < .001$)。多重比較の結果、①の絵本は②、④、⑥より有意に得点が高く ($ps < .01$)、③の絵本は④、⑥の絵本より有意に得点が高いことが示された ($ps < .01$)。選択の理由として、「絵がかわいい」「絵がポップでいい」「色使いがいい」など絵の表現を重視して選択している意見のほか、「怖すぎなくていい」「内容と合っている」など物語の内容に関連しつつ絵本を選んでいることがうかがえた。

表2. 大学生における絵本選好課題の本ごとの平均得点

	①	②	③	④	⑤	⑥
3びきのこぶた	1.40 (1.19)	0.70 (0.98)	0.20 (0.52)	2.20 (0.95)	0.70 (1.08)	0.80 (1.06)
おおきなかぶ	1.9 (1.02)	0.75 (1.12)	1.55 (1.10)	0.3 (0.73)	1.05 (1.23)	0.45 (0.89)
おおかみと7ひきのこやぎ	1.15 (1.09)	1.9 (1.41)	0.55 (0.89)	0.9 (1.02)	1.15 (1.14)	0.35 (0.75)

3. 考察

大人は子どもたちに読み聞かせをするにあたり、どのような表紙の絵本を選んでいるのかを検討した。結果の理由から、『3びきのこぶた』は、実際に持っていたりよく見かけるものを選択しており、『おおきなかぶ』は内容が伝わりやすかったり人気があるもの、『おおかみと7ひきのこやぎ』は色使いがよく絵がかわいいものを選択していることが分かった。全体的に大人は親しみやすく、人気なもの定番のを選び、絵はポップで怖すぎずかわいらしい絵本を読み聞かせしたいということが分かった。つまり大人は子どもには見たことのないような絵本よりも人気があり、絵はかわいらしい方が子どもたちに人気があると思われていることが考えられる。

IV 実験1・2の比較

実験1では幼児を対象として、学年・性別によって好む絵本が異なるかどうかについて検討を行った。そして実験2では、女子大学生を対象として幼児に読み聞かせをするとしたらどのような絵本を選ぶかについて検討を行った。それでは、絵本の表紙を用いた選好課題において、幼児が好みを示す傾向と女子大学生の選択の傾向とは一致するのだろうか。2つの実験の直接比較を行うために、3つの話それぞれについて、年齢(年中/年長/女子大学生)×絵本(6種類)の2要因分散分析を行った。なお、年齢群における絵本の選好については既に検討しているため、年齢と絵本の交互作用がみられた箇所に焦点を当てながら検討を行うこととする。

『3びきのこぶた』においては、年齢の主効果はみられず、絵本の種類の主効果がみられ ($F(5, 275) = 5.76, p < .001$)、年齢と絵本の種類の交互作用がみられた ($F(10, 275) = 6.45, p < .001$)。単純主効果の検定の結果、①と④の絵本において、年中 = 年長 < 大学生という結果がみられた ($ps < .01$)。一方で②、③の絵本においては年中 = 年長 > 大学生という結果がみられた ($ps < .001$)。

『おおきなかぶ』においては、年齢の主効果はみられず、絵本の種類の主効果がみられ ($F(5, 275) = 2.54, p = .03$)、年齢と絵本の種類の交互作用がみられた ($F(10, 275) = 5.82, p < .001$)。単純主効果の検定の結果、①、③の絵本において年長 = 年中 < 大学生という結果がみられた ($ps < .05$)。一方で②、④の絵本においては年中 = 年長 > 大学生という結果がみられた ($ps < .05$)。⑥の絵本においては年中 > 年長 = 大学生という有意傾向がみられた ($p = .07$)。

『おおかみと7ひきのこやぎ』においても、年齢の主効果はみられず、絵本の種類的主効果がみられ ($F(5, 275) = 4.00, p = .002$)、年齢と絵本の種類の交互作用がみられた ($F(10, 275) = 2.15, p = .02$)。単純

主効果の検定の結果、②の絵本において年中 = 年長 < 大学生という結果がみられた ($ps < .05$)。一方で③の絵本において年中 = 年長 > 大学生という結果がみられた ($ps < .001$)。

V 総合考察

本研究では同一の物語の絵本でも表紙の絵の異なる絵本を6種類用意し、どの表紙の絵を好むのかについて『3びきのこぶた』『おおきなかぶ』『おおかみと7ひきのこやぎ』の3種類の絵本を用いて検討した。また、大人にも子ども達に読み聞かせをしたい絵本を選んでもらうことによって、子どもが好む絵本の絵と大人が読み聞かせをしたい絵本の絵は一致するのか検討した。

第1実験の結果として、年中児では性差がみられなかったものの年長児になると絵の選択に性差がみられることが示唆された。具体的には、『おおかみと7ひきのこやぎ』の年長児群の結果において、③の絵については男児が選好し女児が回避する一方で、④の絵については女児が選好し男児が回避するという結果がみられた。③の絵ではオオカミが大きく描かれており、④の絵ではこやぎがかわいらしく楽しそうに描かれている。

今回示された結果は、「男の子らしさ」「女の子らしさ」に基づいた選択であることが示唆される。ジェンダーの発達に関して、子どもはジェンダーに関して敏感であり、ジェンダーに関連する情報を積極的に探索することによって自分にとってジェンダーが何を意味するのかについての自身の概念を形成していくという議論がある (Martin & Ruble, 2004; Ruble et al., 2007)。今回の結果は、絵本選択におけるジェンダー検出と自己のジェンダーにマッチした選好は年長児に現れる可能性を示した。当然のことながら、ジェンダー・ステレオタイプがより顕著な選択肢においては年中児もしくはそれ以前においてもみられる可能性も考えられる。そのため、様々な刺激を用いて検討していくことは今後の課題であると言える。

性差に関する議論としては、色の好みという要因も考えられる。2.5歳児から女児のピンク選好がみられるようになる (LoBue & DeLoache, 2011) という知見に基づくと、女児はピンク系統の色が使われている絵を選好することも考えられる。しかしながら、本研究の結果では年中児群における性差はみられていないことから、色の好みといった要因のみでは説明できないものと考えられる。また、子どもの色の好みといった要因も加味して絵の好みについて検討することも今後必要であると考えられる。

第2実験における選択の理由として最も多かった意見が「絵がかわいいから」であった。その他にも「物語に合っている」「分かりやすい」という理由が挙げられていた。つまり、大人においては「子どもが親んでくれそうなもの」や「その話を1番伝えられそうなもの」といった視点から絵本選びが行われていることがうかがえた。

しかしながら、実験1と2の比較からは、子どもが選ぶ表紙と大人が選ぶ表紙の間にはズレが存在することが示された。この結果は、大人が読ませたい絵本として選択するものと子どもが選ぶ絵本との間にはズレがみられるという中西・覚道 (1992) の指摘を支持するものであると言える。本研究では、絵本の表紙、つまり絵刺激を用いた実験的検討においても子どもの選択と大人の選択とのズレを示しているという点が特徴的であると考えられる。先述したように、絵本選びにおいては内容も重要であるが、「読んでみたい」と思った時に子どもが最初に目にしているものは表紙の絵である。表紙の絵に対する幼児の視覚的選好という視点の重要性を本研究は初めて実験的に示唆したと言ってよいだろう。

本研究の課題と展望

上述のように、本研究は絵本の絵に対する幼児の視覚的選好について、初めて実験的に検討を行った。しかしながら、今回の調査に関してはまだ多くの課題が挙げられる。

第一に、大人の調査協力者の選定と教示の仕方についてである。保育者養成校における学生を対象とした調査では子どもの選好との間にズレがみられることが示された。しかしながら、第2実験での教示は「あなたが子どもに読み聞かせをしたらどれを選びますか」というものであった。保育者が絵本選びを行う際、読み聞かせを行う子どもの年齢や性別、好み、場面などを考慮して選ぶことが考えられる。加えて、調査協力者の幼児の保護者であれば結果は異なるのであろうか。「自分の子どもなら、この絵本を好むかもし

れない」という子どもに合わせた選択が行われるとすれば、一般的な大人の選択とは異なる傾向がみられることも考えられる。今後は、保育士を対象に、読み聞かせの対象や場面を具体的に設定した際でも子どもの絵選好とのズレが生じるかどうか、さらには保護者を対象に、「自分の子どもが好むと予想する絵本」と「親が読ませたい絵本」との間にもギャップが存在するかどうか等について検討することは重要であると考えられる。

第二に、絵本選定の方法についてである。本研究が示した知見は、子どもの視覚的選好を視野に含めることで、子どもがより興味をもちやすい絵本選びに繋がる可能性をもつ。絵本検索システム「ぴたりえ」が用いている複数の特徴量（単語頻度情報、書誌情報、画像特徴量など）に基づく絵本の選択肢の提示に加え、子どもの選好といったデータも含めることで、子どもの年齢や性別にフィットした絵本の提示が可能となるかもしれない。しかし、対象とした絵本の本数が課題として挙げられる。本研究では3つの話を用いたのみであったため、他の話においても調査を行うことが必要であると考えられる。また、サンプル数に関しても、より大きなサンプルサイズで検討することによって、本研究で示した結果の再現性について議論することが可能となるであろう。

第三に、絵本学との接続の問題が挙げられる。本研究では、実験心理学的な手法を用いて知覚的な選好について検討を行った。しかし、上述したように、保育士や保護者が絵本を選ぶときには、読み聞かせの対象児の年齢や場面、そして物語のストーリーや絵のタッチといった絵本の様々な要素を考慮していることが多い。絵本に込められた思いや絵本を読み聞かせする大人の思い、そして絵本の内容との関連について、本研究の段階で議論することはまだ難しいと言える。絵本がもつ魅力を探る絵本研究の文脈において自然科学的なアプローチがどの程度有効となるかについては今後も丁寧に議論を行っていく必要があるだろう。

VI 引用文献

- 片山ふみ・野口康人・佐藤賢一郎 (2017) 「ベテラン保育士の絵本選定：絵本に対する価値観と出版社へのイメージに着目して」、『読書科学』, 59 (4), 198-209.
- LoBue, V., & DeLoache, J. S. (2011). Pretty in pink: The early development of gender-stereotyped colour preference. *British journal of Developmental Psychology*, 29 (3), 656-667.
- Martin, C. L., & Ruble, D. (2004). Children's search for gender cues: Cognitive perspectives on gender development. *Current directions in psychological science*, 13 (2), 67-70.
- 松村 敦・岡本穂高・宇陀則彦 (2010) 「絵本の読み聞かせにおける子どもの好みと絵本の主題との関係性」、『日本教育工学会論文誌』, 34 (Suppl.), 93-96.
- 中西一弘・覚道知津子 (1992) 「子どもが選択する絵本と大人が選択する絵本に関する一考察—幼児絵本におけるマンガの手法の問題を中心に—」、『大阪教育大学紀要第V部門』, 40 (2), 223-238.
- 中澤 潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美 (2005) 「絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響」、『千葉大学教育学部研究紀要』, 53, 193-202.
- 大竹裕香・奥村優子・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生. (2017) 「絵本検索システムを用いた図書館における親子の絵本読み支援の試み」, *読書科学*, 59 (3), 134-148.
- Ruble, D. N., Taylor, L. J., Cyphers, L., Geulich, F. K., Lurye, L. E., & Shrout, P. E. (2007). The role of gender constancy in early gender development. *Child development*, 78 (4), 1121-1136.
- 斎藤 有・内田伸子 (2013) 「幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響：「共有型」と「強制型」の横断的比較」, 『発達心理学研究』, 24 (2), 150-159.
- 佐藤鮎美・内山伊知郎 (2012) 「乳児期における絵本共有が子どもに対する母親の働きかけに及ぼす効果：絵本共有時間を増加させる介入による縦断研究から」, 『発達心理学研究』, 23 (2), 170-179.
- 佐藤鮎美 (2016) 「絵本遊びが親子関係に良い効果をもたらすのは本当か?」, 『ベビーサイエンス』, 16, 18-27.
- 菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子 (2010) 「乳児期の絵本場面における母子の共同注意の指さしをめぐる

発達的变化：積み木場面との比較による縦断研究」、『発達心理学研究』, 21 (1), 46-57.

謝辞

本論文は、第2著者の平成28年度卒業論文に、第1著者が再分析を行い加筆・修正を行ったものである。
また、調査に楽しみながら参加してくれた子どもたちと学生のみなさん、調査にご協力いただいた保育園に篤く感謝申し上げます。

How do children select the front cover of picture books?

Taro MURAKAMI^{*1}, Yukino SHOJI^{*2}

^{*1}Department of Education and Psychology, Faculty of Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka, 807-8586, Japan

^{*2}Sannai Kindergarten

626-1 Kashiwanomori, Iizuka-shi, Fukuoka, 820-0011, Japan

Abstract

The current study examined whether the picture books which children want to read and the books that adults want to read match or not. In experiment 1, a total of 38 children (4- and 5-year-old children) were presented six picture books of the same story with different covers were required to select books which they want to read. In experiment 2, 20 students were asked which picture book to choose when they read to children. As a result, there was a sex difference in the choice of picture books in 5-year-old children. Moreover, there was a gap between the picture book selected by the children and the picture book selected by the students. These results suggested that the importance of visual elements in the selection of picture books.

Key words : picture books, the front cover, children, preference, gap between children and adults